

## 大山札

競技かるたでは、ここまで聞けば札が取れるという部分を「きまり字」といいます。札によって1～6文字の長さのきまり字があります。その中でも、一番長い「6字きまり」の札6枚を総称して「大山札」と言います。例えば、「きみがためはるの～」 「きみがためをしからざりし～」のように6字目まで聞かないと取ることができません。「大山札」という呼び方の由来は、きまり字を聞き終わる前に、どちらかにヤマを張って取ったから、といわれていますが、実際には、ヤマを張らずに正確に取れるように心掛けて練習をします。

また試合中、札が読まれるたびに、きまり字の数が変化していきます。例えば「き」から始まる札は「きみがためは」「きみがためを」「きり」の3枚ありますが、「きみがためは」の札が読まれたら、「きみがためを」は「きみ」の「2字きまり」に変化します。選手たちは、常にこのきまり字の変化を計算しながら試合の戦略をたてています。競技かるたは、スピードある量の上の格闘技でもありながら、とても知的なゲームでもあるわけですね。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部顧問 青池のぞみ